

- 脳・脊髄腔用カニューレは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。
- (14) 套管針カテーテル  
套管針カテーテルは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。
- (15) 栄養カテーテル  
栄養カテーテルは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。
- (16) 気管内チューブ  
気管内チューブは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。ただし、やむを得ず24時間未満で使用した場合は、1個を限度として算定できる。
- (17) 胃管カテーテル  
胃管カテーテルは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。
- (18) 吸引留置カテーテル  
吸引留置カテーテルは、24時間以上体内（消化管内を含む。）に留置し、ドレナージを行う場合に算定できる。
- (19) イレウス用ロングチューブ  
ア イレウス用ロングチューブは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。  
イ ガイドワイヤーは、別に算定できない。
- (20) 腎瘻又は膀胱瘻用カテーテル及びカテーテルセット  
ア 膀胱瘻用カテーテルは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。  
イ 腎瘻用カテーテルは、腎瘻術又はカテーテル交換術を行う際、24時間以上体内留置した場合に算定できる。  
ウ 膀胱瘻用カテーテルを交換した場合は、交換用セットは別に算定できない。  
エ ガイドワイヤーは、別に算定できない。
- (21) 経鼓膜換気チューブ  
経鼓膜換気チューブは、24時間以上体内留置し、滲出性中耳炎の治療を行う場合に算定できる。
- (22) 経皮的又は経内視鏡的胆管等ドレナージ用カテーテルセット  
ア 経皮的又は経内視鏡的胆管等ドレナージ用カテーテルセットは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。  
イ ガイドワイヤーは、別に算定できない。
- (23) 胆道ステントセット  
ア 胆道ステントセットは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。  
イ ガイドワイヤーは、別に算定できない。
- (24) 尿管ステントセット  
ア 尿管ステントセットは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。  
イ 外科的手術により尿管の再建を行う場合に算定できる。  
ウ ガイドワイヤーは、別に算定できない。
- (25) 尿道ステント  
ア 一時留置（交換）型尿道ステントは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。  
イ 一時留置（交換）型尿道ステントを留置する際に使用するガイドワイヤーは、別に算定できない。  
ウ 永久留置型尿道ステントは、1回の手術に対し1個を限度として算定する。
- (26) 交換用胃瘻カテーテル

ア 交換用胃瘻カテーテルは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。

イ バンパー型の交換用胃瘻カテーテルは、4か月に1回を限度として算定できる。

(27) 気管切開後留置用チューブ

T型カニューレは、気管切開を行った場合に算定できる。

(28) 膀胱留置用ディスポーザブルカテーテル

膀胱留置用ディスポーザブルカテーテルは、24時間以上体内留置した場合に算定できる。

(29) 人工腎臓用特定保険医療材料

ア 吸着型血液浄化器（ $\beta_2$ -ミクログロブリン除去用）は、関節痛を伴う透析アミロイド症であって、以下のaからcまでのいずれの要件も満たしている患者に対して、人工腎臓（血液透析に限る。）を行う際に用いた場合に、初回の使用日から1年を限度として算定する。

また、透析アミロイド症の治癒又は軽快により、一旦使用を終了した後再び疼痛等の症状の出現を認めた場合は、以下のb及びcの要件を満たすことを確認した場合に限り、更に1年を限度として算定できる。3度目以降の使用にあっても同様の取扱いとする。

a 手術又は生検により、 $\beta_2$ -ミクログロブリンによるアミロイド沈着が確認されている。

b 透析歴が10年以上であり、以前に手根管開放術を受けている。

c 画像診断により骨嚢胞像が認められる。

なお、本材料を使用した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に本材料の使用開始日を記載する。

イ 人工腎臓用特定保険医療材料の材料価格には、回路の材料価格が含まれ別に算定できない。

(30) 緊急時ブラッドアクセス用留置カテーテル

緊急時ブラッドアクセス用留置カテーテルは1週間に1本を限度として算定できる。

(31) 血漿交換療法用特定保険医療材料

ア 血漿交換用血漿分離器

血漿交換用血漿分離器の材料価格には、回路の材料価格が含まれる。

イ 血漿交換用血漿成分分離器

a 劇症肝炎及び薬物中毒の場合にあっては、二重濾過血漿交換療法は実施されることがなく、したがって膜型血漿成分分離器は請求できない。

b 回路は別に算定できない。

ウ 血漿交換用ディスポーザブル選択的血漿成分吸着器

a 血漿交換用ディスポーザブル選択的血漿成分吸着器として算定できるのは、以下の各々のものである。

① 劇症肝炎又は術後肝不全に対して、ビリルビン及び胆汁酸の除去を目的に使用した場合

② 難治性の家族性高コレステロール血症、巣状糸球体硬化症又は閉塞性動脈硬化症に対して使用した場合（LDL吸着器）

③ 重症筋無力症、悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、ギラン・バレー

一症候群、多発性硬化症又は慢性炎症性脱髄性多発根神経炎に対して使用した場合

b 回路は別に算定できない。

(32) 吸着式血液浄化用浄化器

ア 回路は別に算定できない。

イ 吸着式血液浄化用浄化器（エンドトキシン除去用）は2個を限度として算定する。

ウ 肝性昏睡又は薬物中毒の際に行う吸着式血液浄化法において血漿分離及び吸着式血液浄化を行う場合、吸着式血液浄化用浄化器（肝性昏睡用又は薬物中毒用）とセットになっている血漿分離器は血漿交換用血漿分離器として算定できる。

(33) 白血球吸着用材料

ア 回路は別に算定できない。

イ 1日につき1個を限度として算定する。

(34) 腹膜透析用カテーテル

ガイドワイヤー及び穿刺針は別に算定できない。

(34-2) 腹膜透析液交換セット

腹膜透析液交換セットの取扱いは、上記 I の 2 の (1) に準じる。

(35) 副鼻腔炎治療用カテーテル

副鼻腔炎治療用カテーテルは3本を限度として算定する。

(36) 副木

ア 副木は、その患者のみの使用で消耗する程度のものに限り算定することができる。他の患者に対し何回も使用し得るもの、又は器具と認められる副木について算定することは認められない。

副木には、矯正包帯などに用いる厚紙などは含まない。

イ クラメル副子は副木に含まれる。

ウ 下肢のヒール付ギプス包帯を行った場合のヒールは、特定保険医療材料として算定する。

エ クラメル副子、指アルミ副子については、特定保険医療材料として算定し、外転シーネ、腕関節及び指能動副子については、専門技工家の組立その他複雑な製作を要すると考えられるので療養費払いとする。

オ 区分番号「K 1 4 4」体外式脊椎固定術のベスト式の器械・器具に用いられるベスト部分は、その患者のみの使用により消耗する程度のものに限り算定できる。

(37) 人工股関節用材料及び人工膝関節用材料

ア 人工股関節用材料及び人工膝関節用材料に併用される部品は、特に規定する場合を除き、所定点数に含まれるものであり、別途特定保険医療材料として算定できない。

イ 臼蓋形成用カップ及びライナーが組み合わされ一体化されている製品であって、固定方法が直接固定である製品を使用した場合は、それぞれ算定する。

ウ バイポーラカップとステムヘッドが組み合わされ一体化されている製品を使用した場合は、それぞれ算定する。

エ 脛骨側材料及びインサートが組み合わされ一体化されている製品を使用した場合は、それぞれ算定する。

(38) オプション部品

人工関節固定強化部品として算定できるのは、臼蓋用及び脛骨コンポーネント用のスクリューであり、固定用内副子であるスクリューを使用した場合は、固定用内副子として算定する。

(38-2) 固定用内副子（スクリュー）

その他のスクリュー・特殊型・軟骨及び軟部組織用・スーチャーアンカー型については、1製品に複数のスーチャーアンカーを含む場合、使用したスーチャーアンカー毎に算定できる。

(39) 大腿骨外側固定用内副子

ア スラストプレート人工股関節システムを使用して人工股関節置換術を行った場合は、ラグスクリュー（生体用合金Ⅰ）及びつばなしプレート（生体用合金Ⅰ）により算定する。

イ スラストプレート人工股関節システムを固定するために用いるスクリューは、一般スクリューとして算定できる。

(40) 脊椎固定用材料

ア U字型脊椎ロッドは、脊椎ロッド2本とトランスバース固定器1本を組み合わせたものとして算定して差し支えない。また、レクタングル型脊椎ロッドは、脊椎ロッド2本を組み合わせたものとして算定して差し支えない。

イ 脊椎ロッドと脊椎プレートの機能を併せて持つものについては、主たる機能に係るもののみを算定する。

ウ 脊椎ロッドと椎体フックが組み合わされ一体化されたものについては、それぞれ算定して差し支えない。

エ トランスバース固定器と椎体フックの機能を併せて持つものについては、それぞれ算定して差し支えない。

オ U字型プレート（後頭骨を支持する機能を有するものに限る。）は、脊椎プレート（S）2枚を組み合わせたものとして算定できる。

(41) 上肢再建用人工関節用材料、下肢再建用人工関節用材料並びにカスタムメイド人工関節及びカスタムメイド人工骨

上肢再建用人工関節用材料、下肢再建用人工関節用材料並びにカスタムメイド人工関節及びカスタムメイド人工骨については、原則として悪性腫瘍、再置換等の症例に限って使用できる。なお、当該保険医療材料を使用した場合には、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に明記する。

(42) 固定用金属線

ア 高分子ポリエチレン製のケーブルは、脊椎の固定に使用した場合に、固定用金属線として算定する。

イ ワイヤーについては、使用した長さにより算定する。

(43) 固定用金属ピン

骨接合用器具器械（類別許可品目）として届出されたガイドピンは算定できない。

(44) 人工骨

ア 人工骨は、それぞれ以下の場合に算定できる。

a 骨髄炎、骨・関節感染症、慢性関節疾患、代謝性骨疾患、外傷性骨疾患若しくは骨腫瘍の病巣搔爬後の補填に用いた場合、これらの疾患の治療のために自家骨移植を行った結果その欠損部位の補填を目的として使用した場合、頭蓋欠損部若

しくは骨窓部の充填に使用した場合又は鼓室形成術に使用した場合

- b 汎用型・非吸収型・骨形成促進型については、新鮮な長管骨の骨折で骨欠損の著しい場合において、欠損部位の補填に使用した場合
- c 椎弓・棘間用、椎体固定用については、原発性脊椎悪性腫瘍若しくは悪性腫瘍の脊椎転移後の際の脊椎固定又は脊椎症、椎間板ヘルニア若しくは脊椎分離・すべり症に対する脊椎固定を行う場合
- d 専用型・頭蓋骨・喉頭気管用のうちトルコ鞍プレートについては、下垂体又は視床下部の腫瘍摘除の結果としてトルコ鞍の欠損部補填を行う場合
- e 専用型・頭蓋骨・喉頭気管用のうち眼窩底スペーサについては、眼窩床骨折整復を行う場合
- f 専用型・頭蓋骨・喉頭気管用のうち下顎骨補綴材については、下顎骨腫瘍又は下顎骨外傷の治療として欠損補填を行う場合
- g 骨盤用腸骨稜用については、腸骨稜を移植骨として採取した後の欠損補填を行う場合
- h キールボンについては、骨移植に使用した場合

イ スクリュー併用用はスクリュー1本当たり2mLを限度に算定する。

(45) 骨セメント

ア 頭蓋骨用

頭蓋骨に用いた場合に算定する。

イ 人工関節固定用

人工関節（股関節、膝関節）置換術を行う際の固定を目的として用いた場合に算定する。

ウ 脊椎用~~（I）~~

- a ~~悪性脊椎腫瘍による疼痛性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術に用いた場合に算定する。~~
- b ~~整形外科、脳神経外科、麻酔科及び放射線科を標榜している医療機関において、麻酔科医が当該材料を用いた手技実施時に勤務し、副作用発生時に全身麻酔による手術が行える体制が整備されている施設において使用すること。~~
- c ~~当該材料を用いた場合の手技料は、区分番号「K134」椎間板摘出術2後方摘出術を算定する。~~

(46) 脊髄刺激装置用リード、植埋込型脳・脊髄電気刺激装置

ア 脊髄刺激装置用リード

8極用脊髄刺激装置用リードセットは、4極用脊髄刺激装置用リードセット2本を組み合わせたものとして算定して差し支えない。

イ 植埋込型脳・脊髄電気刺激装置

- a 植埋込型脳・脊髄電気刺激装置（振戦軽減用）は、パーキンソン病又は本態性振戦に伴う振戦等、薬物療法によって十分な治療効果の得られない振戦等の症状の軽減を目的として使用した場合に、1回の手術に対し2個を限度として算定できる。
- b 植埋込型脳・脊髄電気刺激装置の交換に係る費用は、破損した場合等においては算定できるが、単なる機種交換等の場合は算定できない。

(47) 人工内耳用材料

ア 人工内耳用材料の交換に係る費用は、破損した場合等においては算定できるが、

単なる機種の交換等の場合は算定できない。

イ 携帯型又は耳掛け型の選択できる人工内耳用音声信号処理装置については、いずれか一方を選択し算定できる。

なお、耳掛け型を選択した場合は、人工内耳用音声信号処理装置及び人工内耳用ヘッドセットの材料価格を合算して算定する。

ウ 人工内耳用ヘッドピースは、マイクロホン、送信コイル、送信ケーブル、マグネットを合算して算定する。人工内耳用ヘッドピースケーブルは、接続ケーブルで算定する。

エ 耳掛け型のケーブル付き送信コイルは、送信コイルと送信ケーブルを合算して算定する。

(48) 気管・気管支ステント

気管・気管支ステントは、1回の手術に対し1個を限度として算定する。

(49) 食道用ステント

食道用ステントは、1回の手術に対し1個を限度として算定する。

(50) 内視鏡的食道静脈瘤結紮セット

ア 実際に使用したセット数にかかわらず、1日につき1個のみ算定する。

イ 内視鏡的食道静脈瘤結紮セットの材料価格には、デバイス（ワイヤー、アダプタ及びリング）及びオーバーチューブの費用が含まれ別に算定できない。

(51) 組織代用人工繊維布

生体由来材料は、開心根治術の場合に算定できる。

(52) 合成吸収性癒着防止材

合成吸収性癒着防止材を、女子性器手術後の卵管及び卵管采の通過・開存性の維持以外の目的で使用した場合には、373.38cm<sup>2</sup>を限度として算定できる。

(53) 皮膚欠損用創傷被覆材

ア 主として創面保護を目的とする被覆材の費用は、当該材料を使用する手技料の所定点数に含まれ、別に算定できない。

イ 皮膚欠損用創傷被覆材は、いずれも2週間を標準として、特に必要と認められる場合については3週間を限度として算定できる。また、同一部位に対し複数の創傷被覆材を用いた場合は、主たるもののみ算定する。

ウ 皮膚欠損用創傷被覆材は、以下の場合には算定できない。

a 手術縫合創に対して使用した場合

b 真皮に至る創傷用を真皮に至る創傷又は熱傷以外に使用した場合

c 皮下組織に至る創傷用・標準型又は皮下組織に至る創傷用・異形型を皮下組織に至る創傷又は熱傷以外に使用した場合

d 筋・骨に至る創傷用を筋・骨に至る創傷又は熱傷以外に使用した場合

(54) 真皮欠損用グラフト

ア 真皮欠損用グラフトについては、1局所に2回を限度として算定する。

なお、縫縮可能な小さな創に用いた場合は算定できない。

イ 真皮欠損用グラフトについては、口蓋裂手術創の口腔粘膜欠損の修復に用いた場合又は熱傷、外傷、手術創の骨、腱、筋肉等が露出した重度の真皮・軟部組織欠損創の修復に用いた場合に算定できる。

(55) ゼラチンスポンジ止血材

ゼラチンスポンジ止血材については痔疾患術後における直腸肛門部の止血のために用いた場合に算定できる。

(56) デキストラノマー

デキストラノマーは、下腿潰瘍、第Ⅱ度熱傷、第Ⅲ度熱傷若しくは消化管瘻周囲皮膚炎の浸出性創面、褥瘡又は術創に対して、2週間（改善傾向が明らかな場合は、3週間）を限度として算定できる。

(57) 微線維性コラーゲン

ア 微線維性コラーゲンは、肝、脾、脳、脊髄の実質性出血及び硬膜出血並びに脊椎・脊髄手術における硬膜外静脈叢・硬膜近傍骨部、大動脈切開縫合吻合部（人工血管を含む。）、心臓切開縫合閉鎖部、心臓表面、A Cバイパス吻合部、胸骨断面、肺切離面、胸膜剥離面及び縦隔リンパ節郭清部、関節手術における骨切り面、子宮実質、膀胱・骨盤内腹膜・直腸剥離面、傍大動脈リンパ節郭清部、骨盤内リンパ節郭清部、骨盤底又は骨盤壁からの出血で、結紮、レーザーメス又は通常処置による止血が無効又は実施できない場合において、止血に使用した場合に算定する。

イ 微線維性コラーゲンは、粉末状のもの、シート状のもの又は綿状のものにかかわらず算定できる。

ウ ゼラチン止血・接着剤は、解離性大動脈瘤の解離腔、大動脈切開縫合吻合部（人工血管を含む。）、A Cバイパス吻合部又は肺若しくは肝切離面に対し、結紮、レーザーメス又は通常処置による止血・閉鎖が無効又は実施できない場合において、止血・閉鎖のために使用した場合に算定できる。

(58) 経皮的冠動脈形成術用穿刺部止血材料

経皮的冠動脈形成術用穿刺部止血材料は、経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術、経皮的冠動脈形成術（高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの）又は経皮的冠動脈ステント留置術を実施した患者の日帰り又は早期退院を目的とした大腿動脈穿刺部位の止血を行う場合に、5 Fr以上のイントロデューサーシースを使用した症例であって、当該患者が手術の翌々日までに帰宅した場合に限り1セットについてのみ算定できる。

ただし、手術後1週間以内に入院した場合は算定できない。

(59) 頭・静脈、腹腔シャントバルブ

カテーテル、バルブ、リザーバー、コネクタのいずれかが組み合わされ、一体化されたものについては、それぞれ算定して差し支えない。

(60) 植埋込式心臓ペースメーカー用リード、体外式ペースメーカー用カテーテル電極

ア 植埋込式心臓ペースメーカー用リード

植埋込式心臓ペースメーカー用リードを植埋込型除細動器に接続し使用した場合は、そのリードの機能に応じ、経静脈リードの標準型又は誤感知防止型として算定する。

イ 体外式ペースメーカー用カテーテル電極

a 心臓電気生理学的検査機能付加型の「心房内・心室内全域型」及び「アブレーション機能付き」を算定する場合は、区分番号「K595」経皮的カテーテル心筋焼灼術の三次元カラーマッピング加算は算定できない。

b 心臓電気生理学的検査機能付加型の「心房内・心室内全域型」と、「アブレーション機能付き」の両方を使用した場合は、主たるもののみ算定する。

(61) 遠心式体外循環用血液ポンプ

ア 遠心式体外循環用血液ポンプは、人工心肺回路セットに併用される場合、胸部若しくは胸腹部の大動脈瘤手術時における病変部大動脈の一時的バイパスを行う場合又は経皮的な心肺補助法（PCPS）を行う場合に算定できる。

イ 流量測定に用いるセルは別に算定できない。

(62) 体外循環用カニューレ

付加機能のうち加算の対象となる付加されている生体適合性とは、ヘパリンコーティング及び抗血栓性セグメント化ポリウレタンをいう。また、付加機能のうち、密封・固定、圧モニター及びベント（心筋保護カニューレにおけるもの）は加算の対象とならない。

(63) 人工心肺回路

人工心肺と同時に行われた選択的冠灌流の際の回路については、人工心肺回路として算定できる。

(64) 補助人工心臓セット

ア 体外型     

a 当該材料の材料価格には、補助人工心臓血液ポンプ、送血用カニューレ、脱血用カニューレ、駆動用チューブ、心房カフ、スキнкаフ、タイバンド及びシリコン栓の材料価格が含まれ別に算定できない。

b ~~イ 体外型~~は左心補助、右心補助についてそれぞれ1個を限度として算定できる。

イ ~~イ~~ 植込型（拍動流型）     

a ~~を~~植込みから3年以内に再度植え込む必要が生じた場合の材料価格は所定の価格に含まれ別に算定できない。

b ~~当該材料~~ ~~植込型（拍動流型）~~の材料価格には、血液ポンプ、送血用人工血管、脱血用人工血管、送血用生体由来人工心臓弁、脱血用生体由来人工心臓弁、コントロールユニットの材料価格が含まれ別に算定できない。

ウ ~~イ~~ 植込型（非拍動流型）     

a 当該材料の材料価格には、血液ポンプ、送血用人工血管、脱血用人工血管、コントロールユニット等の材料価格が含まれ、別に算定できない。

~~イ~~ b 当該材料 ~~植込型（非拍動流型）~~（水循環回路セットを除く。）を植え込み後に再度植え込む必要が生じた場合、及び水循環回路セットを、前回算定日を起算日として3か月以内に算定する場合には、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

c 当該材料 ~~キ~~ ~~植込型（非拍動流型）~~は、心臓移植適応の重症心不全患者で、薬物療法や体外式補助人工心臓などの補助循環法によっても継続した代償不全に陥っており、かつ、心臓移植以外には救命が困難と考えられる症例に対して、心臓移植までの循環改善に使用する。

d ~~当該材料~~ ~~植込型（非拍動流型）~~は、当該材料を用いた手技に関する所定の研修を修了した医師が使用した場合に限り算定する。

~~ケ~~ ~~植込型（非拍動流型）を使用した場合の手技料（入院中に限る。90日目まで。）は、区分番号「K604」埋込型補助人工心臓を準用する。ただし、91日目以降については、区分番号「K601」人工心肺 1 初目を1月につき1回算定する。~~



~~コ 植込型（非拍動流型）を使用している患者であって入院中以外の者について、モニター、バッテリー及び充電機の使用法の説明等療養上必要な指導を行った場合に、区分番号「K601」大正心肺 1 初日を1月に1回を限度として算定する。この場合において、モニター、バッテリー、充電機等に要する費用は所定点数に含まれる。~~

~~サ 植込型（非拍動流型）を用いる場合（区分番号「K601」大正心肺を算定する場合を含む。）の施設基準は、区分番号「K604」埋込型補助大正心臓の施設基準に準じる。ただし、「（5）移植関係学会合同委員会において、心臓移植手術を実施するものとして選定された施設であること。」については、関係学会から示されている基準に基づき、当該手術が適切に実施されると関係学会から認定された施設とする。また、当該材料を用いる施設は、現に区分番号「K604」の施設基準を届け出ているかどうかにかかわらず、区分番号「K604」の施設基準の届出に必要な様式等に準じて、改めて届け出ること。またその際、関係学会から認定された施設であることを証する文書の写しを添付すること。~~

(65) 心臓手術用カテーテル

ア 心臓手術用カテーテルに併用されるガイドワイヤー等の特定保険医療材料は別途算定できる。

イ 特定保険医療材料以外の保険医療材料であって心臓手術用カテーテルに併用されるもの（三方活栓、延長チューブ、インデフレーター等）は算定できない。

ウ 冠動脈用ステントセット救急処置型は、対象血管内径2.75mmから5.0mmの冠動脈又は伏在静脈グラフトに穿孔が生じ、心嚢内への止血が困難な血液漏出がある患者に対する救命の為の緊急処置に使用された場合のみ算定できる。

エ 冠動脈用ステントセット救急処置型は、本医療材料による処置が不成功となった場合に適切な処置が行えるよう、心臓外科的処置のできる施設若しくは近隣の医療機関との連携により緊急事態に対応できる施設で使用された場合のみ算定できる。

オ 冠動脈用ステントセット救急処置型は、血管造影法、経皮的冠動脈形成術及び経皮的冠動脈ステント留置術に熟練し、かつ、本医療材料を用いた手技に関する所定の研修を修了した医師が使用すること。

カ 冠動脈狭窄部貫通カテーテルは慢性完全狭窄症例や冠動脈完全閉塞の急性心筋梗塞等ガイドワイヤー通過困難な症例において、経皮的冠動脈形成術の施行時に使用した場合に算定できる。

キ 高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルの材料価格には、同時に使用されるモータードライブユニット等（アドバンサー、カッターカテーテル、止血弁等）の費用が含まれ別に算定できない。

(66) ガイディングカテーテル

ア 冠動脈用は、冠動脈形成術を施行する際に使用した場合のみ算定できる。

イ 腹部四肢末梢用は、経皮的四肢血管拡張術及び血栓除去術を行う際に使用した場合のみ算定できる。

ウ 脳血管用は、脳血管の手術の際に使用した場合のみ算定できる。

(67) 血管内手術用カテーテル

ア 経皮的脳血管形成術用カテーテルは、頭蓋内血管の経皮的形成術に使用した場合に算定できる。

イ 下大静脈留置フィルターセット

- a フィルター、フィルター・デリバリー・カテーテル、ガイドワイヤー、ダイレーター、シース、ローディング・コーン及びローディング・ツールは、別に算定できない。
- b 留置後抜去することを前提としたテンポラリー下大静脈留置フィルターは算定できない。

ウ 血栓除去用カテーテル

- a 脳血栓除去用は、1回の手術に対し、3本を限度として算定する。
- b 脳血栓除去用は、当該材料を用いた手技に関する所定の研修を修了した医師が使用した場合に限り算定できる。
- c 脳血栓除去用を使用するに当たっては、関係学会の定める実施基準に準じること。

エ 塞栓用コイル・コイル・特殊型については、所定の研修を修了した医師が実施した場合に限り算定できる。

~~オ 塞栓用コイルのコイル留置用ステントを使用した場合の手技料は、区分番号「K178」脳血管内手術を算定する。~~

(67-2) 尿路拡張用カテーテル

ガイドワイヤーは別に算定できない。

(68) 胆道結石除去用カテーテルセット

ガイドワイヤーは、別に算定できない。

(69) 腎・尿管結石除去用カテーテルセット

ガイドワイヤーは、別に算定できない。

(70) 輸血用血液フィルター（微小凝集塊除去用）

輸血用血液フィルター（微小凝集塊除去用）は、1日当たり、1,000mL以上の輸血を行う場合（体重40kg以下の患者については、体重1kg当たり25mL以上の輸血を行う場合）に算定できる。ただし、血漿製剤中の白血球の除去を目的とするものは算定できない。

(71) 輸血用血液フィルター（赤血球製剤用白血球除去用）及び輸血用血液フィルター（血小板製剤用白血球除去用）

輸血用血液フィルター（赤血球製剤用白血球除去用）及び輸血用血液フィルター（血小板製剤用白血球除去用）は、白血病、再生不良性貧血、慢性腎不全等同一の疾患に対して10回以上の反復輸血が行われる場合（行われることが予想される場合を含む。）に算定できる。ただし、血漿製剤中の白血球の除去を目的とするものは算定できない。

(72) スピードギプス包帯は特定保険医療材料として認められない。

(73) 両室ペーシング機能付き植埋込型除細動器

ア 両室ペーシング機能付き植埋込型除細動器は、施設基準に適合しているものとして地方厚生（支）局長等に届け出た保険医療機関において、以下のいずれにも該当する患者に対して実施した場合に算定する。

a 次のいずれにも該当すること。

- ① NYHAクラスⅢ又はⅣ
- ② 左室駆出率35%以下
- ③ QRS幅130ms以上

b 次のいずれかに該当すること。

- ① 致死性不整脈による心停止に伴う意識消失の既往を有する患者
- ② 血行動態が破綻する心室頻拍又は心室細動の既往を有する患者
- ③ 非持続性心室頻拍が確認され、かつ電気生理学的検査により心室頻拍又は心室細動が誘発される患者

イ 両室ペーシング機能付き植埋込型除細動器の移植術を行った患者については、診療報酬請求に当たって、診療報酬明細書に症状詳記を添付する。

(74) 肝動脈塞栓材

肝動脈塞栓材は、肝細胞癌患者に対する肝動脈塞栓療法において使用した場合に限り算定できる。

(75) 大動脈用ステントグラフト

ア 腹部大動脈用ステントグラフトは腹部大動脈瘤に対して外科手術による治療が第一選択とならない患者で、かつ、当該材料の解剖学的適応を満たす患者に対して、ステントグラフト内挿術が行われた場合にのみ算定できる。

なお、腹部大動脈用ステントグラフトを使用するに当たっては、関係学会の定める当該材料の実施基準に準じること。また、腹部大動脈瘤の治療を目的とした外科手術を比較的安全に行うことが可能な患者に対しては、外科手術を第一選択として治療方法を選択すること。算定に当たっては診療報酬明細書の摘要欄に外科手術が第一選択とならない旨、及び当該材料による治療が適応となる旨を記載すること。

イ 胸部大動脈用ステントグラフトは、1回の手術に対し1個を限度として算定できる。なお、以下の場合には1回の手術に対して2個を限度として算定して差し支えない。ただし、算定に当たっては診療報酬明細書の「摘要」欄に複数個の当該材料による治療が適応となる旨を記載すること。また、胸部大動脈用ステントグラフトを使用するに当たっては、関係学会の定める当該材料の実施基準に準じること。

a 1個のステントグラフトで治療が可能な長さを超えるため、複数個の使用が必要な場合

b 中枢側及び末梢側の固定部位の血管径が異なり、1個のステントグラフトで許容できる範囲を超えるため、複数個の組み合わせによる使用が必要な場合

(76) ~~削除~~カプセル型内視鏡

~~ア カプセル型内視鏡は、消化器系の内科又は外科の経験を5年以上有する常勤の医師が1名以上配置されており、カプセル型内視鏡の滞留に適切に対処できる体制が整っている保険医療機関において実施すること。~~

~~イ 事前に上部消化管検査及び下部消化管検査を実施し、原因不明の消化管出血を伴う小腸疾患の診断を行うために使用した場合に算定できる。~~

~~ウ カプセル型内視鏡を使用した患者については、診療報酬請求に当たって、診療報酬明細書に症状詳記を添付する。~~

(77) 血管内光断層撮影用カテーテル

ア 血管内超音波(IVUS)で観察が困難であるが、血管内腔及び血管壁表層の観察が必要な場合にのみ算定できる。

イ 血管内光断層撮影用カテーテルは、一連の検査、画像診断又は手術につき1本のみ算定できる。

(78) ヒト自家移植組織

ア 自家植皮のための患皮面積が確保できない重篤な広範囲熱傷で、かつ、受傷面積として深達性Ⅱ度熱傷創及びⅢ度熱傷創の合計面積が体表面積の30%以上の熱傷の場合であって、創閉鎖を目的として使用した場合に、一連につき~~20~~40枚を限度として算定する。

イ 深達性Ⅱ度熱傷創への使用は、Ⅲ度熱傷と深達性Ⅱ度熱傷が混在し、分けて治療することが困難な場合に限る。

ウ 凍結保存皮膚を用いた皮膚移植術を行うことが可能であって、救命救急入院料3、救命救急入院料4又は特定集中治療室管理料2の施設基準の届け出を行っている保険医療機関において実施すること。

エ ヒト自家移植組織を使用した患者については、診療報酬請求に当たって、診療報酬明細書に症状詳記を添付する。

(79) 胸郭変形矯正用材料

ア セットを使用する場合は、脊椎固定用材料に属する特定保険医療材料及び固定クリップ（伸展術時交換用）の費用は所定点数に含まれ、別途算定できない。

イ セットは1回の手術につき2セットを限度として算定できる。なお、医学的根拠に基づき3セット以上を算定する場合には、診療報酬明細書の摘要欄にその医学的根拠を詳細に記載すること。

ウ 固定クリップ（伸展術時交換用）は1セット当たり2個を上限として算定できる。

エ 固定クリップ（伸展術時交換用）は伸展術時のみ算定できる。

(80) 経皮的動脈管閉鎖セット

経皮的動脈管閉鎖セットを使用するに当たっては、関係学会の定める当該材料の実施基準に準じること。

(81) ~~削除~~脳動静脈奇形術前塞栓材

~~ア 脳動静脈奇形術前塞栓材は、脳動静脈奇形摘出術を予定している患者に対して、術前処置としての血管塞栓術を目的として使用した場合に限り算定できる。この場合の手技料は区分番号「K 6 1 5」血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管）にて算定する。~~

~~イ 脳動静脈奇形術前塞栓材を使用するに当たっては、関係学会の定める当該材料の実施基準に準じること。~~

(82) 植埋込型心電図記録計

短期間に失神発作を繰り返し、その原因として不整脈が強く疑われる患者であって、心臓超音波検査及び心臓電気生理学的検査（心電図検査及びホルター型心電図検査を含む。）等によりその原因が特定できない者に対して、原因究明を目的として使用した場合に限り算定できる。

(83) 合成吸収性硬膜補強材

本材料は5 mLを1単位とする。

(83-2) ~~削除~~消化管用ステントセット

~~大腸用ステントを使用した場合の手技料は、区分番号「K 6 5 1」内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術の所定点数を算定する。~~

(84) 局所陰圧閉鎖処置用材料

ア 局所陰圧閉鎖処置用材料は以下の場合にのみ算定できる。

- a 外傷性裂開創（一次閉鎖が不可能なもの）
- b 外科手術後離開創・開放創
- c 四肢切断端開放創
- d デブリードマン後皮膚欠損創

イ 主として創面保護を目的とする被覆材の費用は、当該材料を使用する手技料の所定点数に含まれ、別に算定できない。

ウ 局所陰圧閉鎖処置用材料は局所陰圧閉鎖処置開始日より3週間を標準として算定できる。特に必要と認められる場合については4週間を限度として算定できる。3週間を超えて算定した場合は、診療報酬明細書の摘要欄にその理由及び医学的な根拠を詳細に記載すること。

エ 局所陰圧閉鎖処置用材料を使用した場合は、処置開始日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

(85) ~~植埋~~込型迷走神経電気刺激装置及び迷走神経刺激装置用リードセット

~~ア~~ 当該装置は、薬剤抵抗性の難治性てんかん発作を有するてんかん患者（開頭手術が奏功する症例の者を除く。）について、てんかん発作の頻度を軽減する目的として使用した場合で、所定の研修を修了した医師が使用した場合に算定できる。

~~イ~~ ~~以下の要件を満たす医師が使用した場合に限り、算定できる。~~

~~ア~~ ~~当該装置を用いた手技に関する所定の研修を修了した者であること。~~

~~イ~~ ~~てんかん外科治療に関する専門の知識及び5年以上の経験を有する者であること。~~

~~ウ~~ ~~当該装置を使用するに当たっては、関係学会の定める実施基準に準拠すること。~~

~~エ~~ ~~当該装置を埋め込んだ場合の手技料は、区分番号「K599」埋込型除細動器移植術を算定する。~~

~~オ~~ ~~当該装置を交換した場合の手技料は、区分番号「K599-2」埋込型除細動器交換術を算定する。~~

(86) 経皮的心腔内リード除去用レーザーシースセット

~~ア~~ 当該材料を用いた手技に関する所定の研修を修了した医師が使用した場合に限り算定できる。

~~イ~~ ~~当該材料を使用するに当たっては、関係学会の定める実施基準に準拠すること。~~

~~ウ~~ ~~当該材料を使用した場合の手技料は、区分番号「K549」経皮的冠動脈ステント留置術を算定する。~~

(87) 膀胱尿管逆流症治療用注入材

~~ア~~ 1回の手術に対し、一側につき3本を限度として算定する。

~~イ~~ ~~当該材料を使用した場合の手技料は、区分番号「K823-2」尿失禁又は膀胱尿管逆流現象コラーゲン注入手術を算定する。なお注入針、膀胱鏡等の費用は所定手技料に含まれ、別に算定できない。~~

(88) 椎体形成用材料セット

ア 当該材料を用いた手技に関する所定の研修を終了した医師が使用した場合に限り算定できる。

~~イ~~ ~~全身麻酔による脊椎除圧再建術、血管修復術等の緊急事態における対応を行うことができる施設において使用すること。~~

イ 椎体形成用材料セットは、原発性骨粗鬆症による場合は1回の手術に対し1セ

ットを、多発性骨髄腫又は転移性骨腫瘍による場合は3セットを限度として算定する。

~~エ 当該材料を使用した場合の手技料は、区分番号「K134」椎間板摘出術2後方摘出術を算定する。複数椎体に対して使用した場合も、当該区分に準じて算定する。~~

(89) 脊椎棘間留置材料

ア 当該材料を用いた手技に関する所定の研修を終了した医師が使用した場合に限り算定できる。

イ 脊椎棘間留置材料は、1回の手術に対し2個を限度として算定する。

~~ウ 当該材料を使用した場合の手技料は、区分番号「K134」椎間板摘出術4経皮的髄核摘出術を算定する。~~

(90) 外科用接着用材料

当該材料は、1回の手術につき30mLを限度として算定する。

(91) ~~削除~~交換用経皮経食道胃管カテーテル

~~ア 当該材料を初回に留置する場合の手技料は、「K520」食道縫合術1頸部手術を準用する。この場合、用いるカテーテル（当該材料を含む。）及びキットの費用は所定点数に含まれ、別に算定できない。~~

~~イ 当該材料を交換する場合の手技料は、「J0434」胃瘻カテーテル交換法を準用する。なお、その際行われる画像診断及び内視鏡等の費用は、当該点数の算定日に限り、1回に限り算定する。~~

(92) 心腔内超音波プローブ

~~ア 当該材料を使用した場合の手技料は、区分番号「D206」心臓カテーテル法による諸検査（一連の検査について）の「注3」血管内超音波検査を実施した場合に準じて算定する。ただし、画像診断及び検査の費用を別に算定できない手術を算定する場合には、当該手技料は算定しない。~~

~~イ 磁気センサー付きを算定する場合は、区分番号「K595」経皮的カテーテル心筋焼灼術の「注1」三次元カラーマッピング加算は算定できない。~~

(93) ~~削除~~血管造影用圧センサー付ガイドワイヤ

~~当該材料を用いて、冠動脈以外の動脈に対し、区分番号「E003」造影剤注入手技を行うに際し、動脈血流予備能測定検査を実施した場合は、区分番号「D206」心臓カテーテル法による諸検査の「注3」冠動脈血流予備能測定検査の所定点数に準じて加算する。~~

~~なお、区分番号「D206」心臓カテーテル法による諸検査のうち「注3」の冠動脈血流予備能測定検査を実施した場合の取扱いは従前の通りである。~~

4 フィルムに係る取扱いについて

(1) 1枚のフィルムを半分ずつ使用して2回撮影した場合のフィルム料は、当該フィルムの材料価格によって算定する。即ち実際に使用したフィルムの価格による。

(2) 6歳未満の乳幼児の胸部単純撮影又は腹部単純撮影を行った場合には、損耗量が多いことを考慮して材料価格に1.1を乗じて算定するものである。

(3) マンモグラフィー用フィルム以外の軟部組織撮影用フィルムについては、一般の直接撮影用フィルムとして算定する。

- (4) マンモグラフィー用フィルムの撮影対象部位は乳房のみである。
- (5) 画像記録用フィルムとは、コンピューター断層撮影、コンピューテッド・ラジオグラフィ法撮影、シンチグラム（画像を伴うもの）、シングルホトンエミッションコンピューター断層撮影、磁気共鳴コンピューター断層撮影又はデジタル・サブトラクション・アンギオグラフィ法に用いるフィルムをいう。
- (6) コンピューター断層撮影又はコンピューテッド・ラジオグラフィ用の乾式イメージャーを用いる非銀塩感熱記録式フィルム、非銀塩高安定ラミネート方式フィルムは、画像記録用フィルムとして算定して差し支えない。
- (7) ロールフィルムのうち、フィルムの幅が告示に定められている規格と同様であるか又は類似している場合（35.6センチメートル、30.5センチメートル及び10.5センチメートル等）にあつては、告示に定められている規格の枚数に換算し、算出した額を限度とする。
- (8) 心臓又は血管の動態を把握するために使用したロールフィルム（シネフィルム）については、所定点数に含まれ別に算定できない。
- (9) 画像診断に係る手技料を別に算定できない検査、処置、手術を行った場合においても、使用したフィルムに要する費用については、区分番号「E400」に掲げるフィルム料を算定できる。また、特定保険医療材料及び造影剤を使用した場合は、各部に掲げる特定保険医療材料及び薬剤料を算定できる。
- (10) フィルムの規格が定められていないフィルムにあつては、定められている規格のうちで最も近似するフィルムの規格の材料価格により算定する。

## 5 臨床試用特定保険医療材料に係る取扱いについて

### (1) 臨床試用特定保険医療材料に係る保険請求上の取扱い

臨床試用特定保険医療材料は、算定方法告示に規定され、医療保険上の給付対象となる「特定保険医療材料」には該当しないものであり、したがって、臨床試用特定保険医療材料に係る特定保険医療材料料については、保険請求は認められない。

### (2) 臨床試用特定保険医療材料を使用した場合の手技料等の取扱い

臨床試用特定保険医療材料が材料価格基準に記載されている特定保険医療材料である限り、当該臨床試用特定保険医療材料に係る手技料については、保険請求が認められる。

## 6 経過措置について

~~（1）~~ 「特定保険医療材料の保険償還価格算定の基準について」（平成~~24~~~~22~~年2月~~10~~~~12~~日保発~~0210~~~~0212~~第~~6~~~~10~~号）第4章2の規定に基づき、再算定が行われたダイレーター、胆道ステントセット、固定用内副子（スクリュー）、大腿骨外側固定用内副子、脊椎固定用材料、下肢再建用人工関節用材料、髄内釘、及び固定用金属線、人工靭帯、内視鏡的食道静脈瘤結紮セット、組織代用人工繊維布、体外式ペースメーカー用カテーテル電極、弁付きグラフト（生体弁）、人工心肺回路、心臓手術用カテーテル、血管内手術用カテーテル及び人工血管について、特定保険医療材料の安定的な供給を確保する観点から、段階的に価格を引き下げるよう経過措置を設けたところである。

~~（2）次に掲げる留意事項は、原則として平成23年3月31日をもって廃止する。~~  
~~遠心分離式白血球除去用材料~~

~~ア 回路は別に算定できない。~~

~~イ 1日につき1個を限度として算定する。~~

## II 算定方法告示別表第二歯科診療報酬点数表に関する事項

### 1 特定保険医療材料の算定に係る一般的事項

I の 1 と同様であること。

### 2 特定保険医療材料（フィルムを除く。）に係る取扱い

#### (1) 中心静脈用カテーテル

I の 3 の (10) と同様であること。

#### (2) プラスチックカニューレ型静脈内留置針

I の 3 の (9) と同様であること。

#### (3) 栄養カテーテル

I の 3 の (15) と同様であること。

#### (4) 気管内チューブ

I の 3 の (16) と同様であること。

#### (5) 胃管カテーテル

I の 3 の (17) と同様であること。

#### (6) 吸引留置カテーテル

I の 3 の (18) と同様であること。

#### (7) 膀胱留置用ディスポーザブルカテーテル

I の 3 の (28) と同様であること。

#### (8) 固定用金属ピン

I の 3 の (43) と同様であること。

#### (9) 人工骨

汎用型・非吸収型のうち、顆粒・フィラー、多孔体、形状賦形型及び吸収型については、骨髄炎、骨・関節感染症、慢性関節疾患、代謝性骨疾患、外傷性骨疾患、骨腫瘍の病巣掻爬後の補填、歯肉剥離掻爬手術若しくは歯周組織再生誘導手術中の補填又は顎変形症の顎離脱後の補填に用いた場合、これらの疾患の治療のために自家骨移植を行った結果その欠損部位の補填を目的として使用した場合に算定する。

#### (10) 皮膚欠損用創傷被覆材

I の 3 の (53) と同様であること。

#### (11) 真皮欠損用グラフト

I の 3 の (54) と同様であること。

#### (12) 輸血用血液フィルター（微小凝集塊除去用）

I の 3 の (70) と同様であること。

#### (13) 輸血用血液フィルター（赤血球製剤用白血球除去用）及び輸血用血液フィルター（血小板製剤用白血球除去用）

I の 3 の (71) と同様であること。

#### (14) スピードギプス包帯

I の 3 の (72) と同様であること。



3 フィルムに係る取扱いについて

Iの4と同様であること。ただし、(2)の「胸部単純撮影又は腹部単純撮影」は「単純撮影」と読み替えるものであること。

4 臨床試用特定保険医療材料に係る取扱いについて

Iの5と同様であること。

5 経過措置について

「特定保険医療材料の保険償還価格算定の基準について」（平成24年2月10日保発0210第6号）第4章2の規定に基づき、再算定が行われた固定用金属線について、特定保険医療材料の安定的な供給を確保する観点から、段階的に価格を引き下げるよう経過措置を設けたところである。

III 算定方法告示別表第三調剤報酬点数表に関する事項

1 特定保険医療材料の算定に係る一般的事項

Iの1と同様であること。

2 特定保険医療材料（フィルムを除く。）に係る取扱い

(1) 腹膜透析液交換セット

Iの2の(1)と同様であること。

(2) 在宅中心静脈栄養用輸液セット

Iの2の(2)と同様であること。

(3) 携帯型ディスプレイ注入ポンプ

疼痛管理又は化学療法を目的として使用した場合に限り算定できる。疼痛管理においてPCA（Patient Controlled Analgesia）用装置を併用（一体型製品を含む。）した場合の費用も当該材料価格に含まれる。携帯型ディスプレイ注入ポンプは、頻回の疼痛管理等で1月につき7個以上用いる場合において、7個目以降の携帯型ディスプレイ注入ポンプについて算定する~~Iの2の(4)と同様であること。~~

3 臨床試用特定保険医療材料に係る取扱いについて

Iの5と同様であること。

IV 診療報酬明細書における略称の使用に関する事項

別紙に掲げる特定保険医療材料については、診療報酬明細書に記載する場合に、同表に定める略称を使用して差し支えない。

(別紙)

告示名	略称
003 動脈圧測定用カテーテル (1) 肺動脈圧及び肺動脈楔入圧測定用カテーテル (2) 末梢動脈圧測定用カテーテル	動脈圧モニターカテ肺動脈用 動脈圧モニターカテ末梢動脈用
004 冠状静脈洞内血液採取用カテーテル	C S採血カテ
005 サーマダイリユーション用カテーテル (1) 一般型・(標準型・標準型) (2) 一般型・(標準型・輸液又はペーシングリード用ルーメンあり) (3) 一般型・混合静脈血酸素飽和度モニター機能あり (4) 一般型・ペーシング機能あり (5) 右室駆出率測定機能あり・混合静脈血酸素飽和度モニター機能あり (6) 右室駆出率測定機能あり・混合静脈血酸素飽和度モニター機能なし (7) 連続心拍出量測定機能あり・混合静脈血酸素飽和度モニター機能あり (8) 連続心拍出量測定機能あり・混合静脈血酸素飽和度モニター機能なし (9) 一側肺動脈閉塞試験機能あり	サーマ標準 サーマ(標準・ルーメン) サーマ(標準・オキシ) サーマ(標準・ペーシング) サーマ(REF・オキシ) サーマREF サーマ(CCO・オキシ) サーマCCO サーマUPAO
010 血管造影用マイクロカテーテル (1) オーバーザワイヤー・選択的アプローチ型・ブレードあり (2) オーバーザワイヤー・選択的アプローチ型・ブレードなし (3) オーバーザワイヤー・造影能強化型 (4) オーバーザワイヤー・デタッチャブルコイル用 (5) フローダイレクト	マイクロカテ・OSB マイクロカテ・OS マイクロカテ・OZ マイクロカテ・Oコイル マイクロカテ・フローダイレクト
021 中心静脈用カテーテル (1) 標準型・シングルルーメン・スルーザカニューラ型 (2) 標準型・シングルルーメン・セルジンガー型 (3) 標準型・マルチルーメン・スルーザカニューラ型 (4) 標準型・マルチルーメン・セルジンガー型 (5) 抗血栓性型 (6) 極細型 (7) カフ付き (8) 酸素飽和度測定機能付き (9) 末梢留置型中心静脈カテーテル・逆流防止機能付き	中心静脈カテ・標準・I 中心静脈カテ・標準・II 中心静脈カテ・標準・III 中心静脈カテ・標準・IV 中心静脈カテ・抗血栓 中心静脈カテ・極細 中心静脈カテ・カフ 中心静脈カテ・オキシ 中心静脈カテ・末梢留置
023 涙液・涙道シリコンチューブ	涙道チューブ
024 脳・脊髄腔用カニューレ (1) 排液用・皮下・硬膜外用 (2) 排液用・頭蓋内用 (3) 排液用・脊髄クモ膜下腔用 (4) 脳圧測定用	脳・脊髄カニューレ・I 脳・脊髄カニューレ・II 脳・脊髄カニューレ・III 脳・脊髄カニューレ・IV
026 栄養カテーテル (1) 経鼻用・一般用 (2) 経鼻用・乳幼児用・一般型 (3) 経鼻用・乳幼児用・非DEHP型 (4) 経鼻用・経腸栄養用 (5) 経鼻用・特殊型 (6) 腸瘻用	栄養カテ・経鼻・一般型 栄養カテ・経鼻・乳児1 栄養カテ・経鼻・乳児2 栄養カテ・経鼻・経腸型 栄養カテ・経鼻・特殊型 栄養カテ・腸瘻型

告示名	略称
027 気管内チューブ (1) カフあり・カフ上部吸引機能あり (2) カフあり・カフ上部吸引機能なし・標準型 (2-2) カフあり・カフ上部吸引機能なし・特殊処理型 (3) カフなし	気管内・吸引あり 気管内・吸引なし・標準型 気管内・吸引なし・特殊処理型 気管内・カフなし
028 胃管カテーテル (1) シングルルーメン (2) ダブルルーメン・標準型 (3) ダブルルーメン・特殊型 (4) マグネット付き	胃管カテ・シングル型 胃管カテ・ダブル・標準型 胃管カテ・ダブル・特殊型 胃管カテ・特殊型
029 吸引留置カテーテル (1) 能動吸引型・胸腔用・一般型・軟質型 (2) 能動吸引型・胸腔用・一般型・硬質型 (3) 能動吸引型・胸腔用・抗血栓性 (4) 能動吸引型・心嚢・縦隔穿刺用 (5) 能動吸引型・肺全摘術後用 (6) 能動吸引型・創部用・軟質型 (7) 能動吸引型・創部用・硬質型 (8) 能動吸引型・サンプドレイン (9) 受動吸引型・フィルム・チューブドレイン・フィルム型 (10) 受動吸引型・フィルム・チューブドレイン・チューブ型 (11) 受動吸引型・胆膵用・胆管チューブ (12) 受動吸引型・胆膵用・胆嚢管チューブ (13) 受動吸引型・胆膵用・膵管チューブ	吸引留置カテ・胸腔用 I 吸引留置カテ・胸腔用 II 吸引留置カテ・胸腔用抗血栓 吸引留置カテ・穿刺型 吸引留置カテ・肺全摘用 吸引留置カテ・創部用 I 吸引留置カテ・創部用 II 吸引留置カテ・サンプ 吸引留置カテ・フィルム・チューブ I 吸引留置カテ・フィルム・チューブ II 吸引留置カテ・胆膵用 I 吸引留置カテ・胆膵用 II 吸引留置カテ・胆膵用 III
030 イレウス用ロングチューブ (1) 標準型・経鼻挿入型 (2) 標準型・経肛門挿入型 (3) スプリント機能付加型	イレウス経鼻 イレウス経肛門 イレウススプリント
031 腎瘻又は膀胱瘻用カテーテル及びカテーテルセット (1) 腎瘻用カテーテル・ストレート型 (2) 腎瘻用カテーテル・ビッグテイル型 (3) 腎瘻用カテーテル・マレコ型 (4) 腎瘻用カテーテル・カテーテルステント型 (5) 腎瘻用カテーテル・腎盂バルーン型 (6) 膀胱瘻用カテーテル (7) 造設用セット (8) 交換用セット	腎瘻・膀胱瘻カテストレート 腎瘻・膀胱瘻カテビッグテイル 腎瘻・膀胱瘻カテマレコ 腎瘻・膀胱瘻カテカテーテルステント 腎瘻・膀胱瘻カテ腎盂バルーン 腎瘻・膀胱瘻カテ膀胱瘻用 腎瘻・膀胱瘻造設用 腎瘻・膀胱瘻交換用
033 経皮的又は経内視鏡的胆管等ドレナージ用カテーテルセット (1) ワンステップ法・ダイレクト法セット (2) ツーステップ法・内外瘻法セット (3) 外筒法セット (4) 経鼻法セット (5) 追加・交換用セット	P T C Dカテ 1 P T C Dカテ 2 P T C Dカテ外筒法 P T C Dカテ E N B D P T C Dカテ追加交換
034 胆道ステントセット	

告示名	略称
(1) 一般型・永久留置型・ステント・ロング (2) 一般型・永久留置型・ステント・ショート (3) 一般型・永久留置型・デリバリーシステム (4) 一般型・一時留置型・ステント (5) 一般型・一時留置型・デリバリーシステム (6) 自動装着システム付・永久留置型・カバーあり (7) 自動装着システム付・永久留置型・カバーなし (8) 自動装着システム付・一時留置型	胆道ステント・一般・永久・ステント長 胆道ステント・一般・永久・ステント短 胆道ステント・一般・永久・デリバリー 胆道ステント・一般・一時・ステント 胆道ステント・一般・一時・デリバリー 胆道ステント・自動・永久・カバー有 胆道ステント・自動・永久・カバー無 胆道ステント・自動・一時
035 尿管ステントセット (1) 一般型・標準型 (2) 一般型・異物付着防止型 (3) 外瘻用・腎盂留置型・標準型 (4) 外瘻用・腎盂留置型・異物付着防止型 (5) 外瘻用・尿管留置型 (6) エンドパイロトミー用	尿管ステント一般Ⅰ 尿管ステント一般Ⅱ 尿管ステント外瘻Ⅰ 尿管ステント外瘻Ⅱ 尿管ステント外瘻Ⅲ 尿管ステントエンドパイロトミー
036 尿道ステント (1) 永久留置型 (2) 一時留置（交換）型・長期留置型 (3) 一時留置（交換）型・短期留置型	尿道ステントⅠ 尿道ステントⅡ 尿道ステントⅢ
037 交換用胃瘻カテーテル (1) 胃留置型・バンパー型・ガイドワイヤーあり (2) 胃留置型・バンパー型・ガイドワイヤーなし (3) 胃留置型・バルーン型 (4) 小腸留置型	胃瘻カテⅠ－Ⅰ 胃瘻カテⅠ－Ⅱ 胃瘻カテⅡ 胃瘻カテⅢ
038 気管切開後留置用チューブ (1) 一般型・カフ付き気管切開チューブ・カフ上部吸引機能あり・一重管 (2) 一般型・カフ付き気管切開チューブ・カフ上部吸引機能あり・二重管 (3) 一般型・カフ付き気管切開チューブ・カフ上部吸引機能なし・一重管 (4) 一般型・カフ付き気管切開チューブ・カフ上部吸引機能なし・二重管 (5) 一般型・カフなし気管切開チューブ (6) 輪状甲状膜切開チューブ (7) 保持用気管切開チューブ	気管切開・吸引あり・一重管 気管切開・吸引あり・二重管 気管切開・吸引なし・一重管 気管切開・吸引なし・二重管 気管切開・カフなし 気管切開・輪状甲状膜用 気管切開・保持用
039 膀胱留置用ディスポーザブルカテーテル (1) 2管一般（Ⅰ） (2) 2管一般（Ⅱ） (3) 2管一般（Ⅲ） (4) 特定（Ⅰ） (5) 特定（Ⅱ） (6) 圧迫止血	膀胱留置カテ2管一般（Ⅰ） 膀胱留置カテ2管一般（Ⅱ） 膀胱留置カテ2管一般（Ⅲ） 膀胱留置カテ特定（Ⅰ） 膀胱留置カテ特定（Ⅱ） 膀胱留置カテ圧迫止血
042 緊急時ブラッドアクセス用留置カテーテル (1) シングルルーメン・一般型 (2) シングルルーメン・交換用 (3) ダブルルーメン以上・一般型 (4) ダブルルーメン以上・カフ型	ブラッドアクセスカテS一般 ブラッドアクセスカテS交換 ブラッドアクセスカテD一般 ブラッドアクセスカテDカフ

告示名	略称
044 血漿交換用血漿分離器	血漿分離器
045 血漿交換用血漿成分分離器	血漿成分分離器
047 吸着式血液浄化用浄化器（エンドトキシン除去用）	吸着式血液浄化（エンドトキシン）
048 吸着式血液浄化用浄化器（肝性昏睡用又は薬物中毒用）	吸着式血液浄化（肝性昏睡・薬物）
056 副木 (1) 軟化成形使用型・手指・足指用 (2) 軟化成形使用型・上肢用 (3) 軟化成形使用型・下肢用 (4) 軟化成形使用型・鼻骨用 (5) 形状賦形型・手指・足指用 (6) 形状賦形型・上肢用 (7) 形状賦形型・下肢用 (8) 形状賦形型・鼻骨用 (9) ハローベスト（ベスト部分） (10) ヒール	副木・F10-a-1 副木・F10-a-2 副木・F10-a-3 副木・F10-a-4 副木・F10-b-1 副木・F10-b-2 副木・F10-b-3 副木・F10-b-4 副木・F10-c 副木・F10-d
057 人工股関節用材料 (1) 骨盤側材料・臼蓋形成用カップ（Ⅰ）・標準型 (1-2) 骨盤側材料・臼蓋形成用カップ（Ⅰ）・特殊型 (2) 骨盤側材料・臼蓋形成用カップ（Ⅱ） (2-2) 骨盤側材料・カップ・ライナー一体型（Ⅱ） (3) 骨盤側材料・ライナー（Ⅰ） (3-2) 骨盤側材料・ライナー（Ⅲ） (3-3) 骨盤側材料・ライナー（Ⅳ） (4) 大腿骨側材料・大腿骨ステム（Ⅰ）・標準型 (4-2) 大腿骨側材料・大腿骨ステム（Ⅰ）・特殊型 (5) 大腿骨側材料・大腿骨ステム（Ⅱ） (6) 大腿骨側材料・大腿骨ステムヘッド・大腿骨ステムヘッド（Ⅰ） (6-2) 大腿骨側材料・大腿骨ステムヘッド・大腿骨ステムヘッド（Ⅱ） (7) 大腿骨側材料・人工骨頭用・モノポーラカップ (8) 大腿骨側材料・人工骨頭用・バイポーラカップ (9) 単純人工骨頭	人工股関節HA-1 人工股関節HA-1-2 人工股関節HA-2 人工股関節HA-2-2 人工股関節HA-3 人工股関節HA-3-2 人工股関節HA-3-3 人工股関節HF-4 人工股関節HF-4-2 人工股関節HF-5 人工股関節HF-6 人工股関節HF-6-2 人工股関節HM-7 人工股関節HB-8 人工股関節HE-9
058 人工膝関節用材料 (1) 大腿骨側材料・全置換用材料（Ⅰ） (2) 大腿骨側材料・全置換用材料（Ⅱ） (2-2) 大腿骨側材料・全置換用材料（Ⅲ） (3) 大腿骨側材料・片側置換用材料（Ⅰ） (4) 大腿骨側材料・片側置換用材料（Ⅱ） (5) 脛骨側材料・全置換用材料（Ⅰ）・標準型 (5-2) 脛骨側材料・全置換用材料（Ⅰ）・特殊型 (6) 脛骨側材料・全置換用材料（Ⅱ） (7) 脛骨側材料・片側置換用材料（Ⅰ） (8) 脛骨側材料・片側置換用材料（Ⅱ） (9) 膝蓋骨材料・膝蓋骨置換用材料（Ⅰ） (10) 削除	人工膝関節KF-1 人工膝関節KF-2 人工膝関節KF-2-2 人工膝関節KH-3 人工膝関節KH-4 人工膝関節KT-5 人工膝関節KT-5-2 人工膝関節KT-6 人工膝関節KH-7 人工膝関節KH-8 人工膝関節KP-9

告示名	略称
(10-2) 膝蓋骨材料・膝蓋骨置換用材料 (Ⅲ)	人工膝関節K P-10-2
(10-3) 削除	
(11) インサート (Ⅰ)	人工膝関節K I-11
(12) インサート (Ⅱ)	人工膝関節K I-12
059 オプション部品	
(1) 人工股関節用部品・一般オプション部品	オプション部品・OH-1
<u>(1-2) 人工股関節用部品・カップサポート</u>	<u>オプション部品・OH-1-2</u>
(2) 人工膝関節用部品	オプション部品・OK-2
(3) 人工関節固定強化部品・人工関節固定強化部品 (Ⅰ)	オプション部品・OF-3
(3-2) 人工関節固定強化部品・人工関節固定強化部品 (Ⅱ)	オプション部品・OF-3-2
(4) 再建用強化部品	オプション部品・OR-4
060 固定用内副子 (スクリュー)	
(1) 一般スクリュー (生体用合金Ⅰ)	固定用内副子・FA-1
(2) 一般スクリュー (生体用合金Ⅱ)	固定用内副子・FA-2
(3) 一般スクリュー (アルミナセラミック)	固定用内副子・FA-3
(4) 中空スクリュー (生体用合金Ⅰ・S)	固定用内副子・FB-1-S
(5) 中空スクリュー (生体用合金Ⅰ・L)	固定用内副子・FB-1-L
(6) 中空スクリュー (生体用合金Ⅱ・S)	固定用内副子・FB-2-S
(7) 中空スクリュー (生体用合金Ⅱ・L)	固定用内副子・FB-2-L
(8) その他のスクリュー	
① 標準型・小型スクリュー(頭蓋骨・顔面・上下顎骨用)	固定用内副子・F1-a
② 特殊型・軟骨及び軟部組織用・スーチャアアンカー型 <u>(スクリュー型)</u>	固定用内副子・F1-b-1
<u>②-2 特殊型・軟骨及び軟部組織用・スーチャアアンカー型 (その他)</u>	<u>固定用内副子・F1-b-1-1</u>
③ 特殊型・軟骨及び軟部組織用・インターフェアレンス型	固定用内副子・F1-b-2
④ 特殊型・軟骨及び軟部組織用・座金型	固定用内副子・F1-b-3
⑤ 特殊型・圧迫調整固定用・両端ねじ型・大腿骨頸部用	固定用内副子・F1-c-1
⑥ 特殊型・圧迫調整固定用・両端ねじ型・一般用	固定用内副子・F1-c-2
⑦ 特殊型・義眼等人工物固定用	固定用内副子・F1-d
061 固定用内副子 (プレート)	
(1) ストレートプレート (生体用合金Ⅰ・S)	固定用内副子・FC-1-S
(2) ストレートプレート (生体用合金Ⅰ・L)	固定用内副子・FC-1-L
(3) ストレートプレート (生体用合金Ⅱ・S)	固定用内副子・FC-2-S
(4) ストレートプレート (生体用合金Ⅱ・L)	固定用内副子・FC-2-L
(5) 有角プレート (生体用合金Ⅰ)	固定用内副子・FD-1
(6) 有角プレート (生体用合金Ⅱ)	固定用内副子・FD-2
(7) 骨端用プレート (生体用合金Ⅰ)	固定用内副子・FE-1
(8) 骨端用プレート (生体用合金Ⅱ)	固定用内副子・FE-2
(9) その他のプレート	
① 標準・指骨・頭蓋骨・顔面骨、上下顎骨用・ストレート型・異形型	固定用内副子・F2-a-1
② 標準・指骨・頭蓋骨・顔面骨、上下顎骨用・メッシュ型	固定用内副子・F2-a-2
③ 標準・下顎骨・骨盤再建用	固定用内副子・F2-b
④ 標準・人工顎関節用	固定用内副子・F2-c
⑤ 標準・頭蓋骨閉鎖用・バーホール型	固定用内副子・F2-d-1
⑥ 標準・頭蓋骨閉鎖用・クランプ型	固定用内副子・F2-d-2

告示名	略称
⑦ 特殊・骨延長用	固定用内副子・F 2 - e
⑧ 特殊・スクリュー非使用型	固定用内副子・F 2 - f
062 大腿骨外側固定用内副子 (1) つばなしプレート (生体用合金Ⅰ) (2) つばなしプレート (生体用合金Ⅱ) (3) つばつきプレート (生体用合金Ⅰ) (4) つばつきプレート (生体用合金Ⅱ) (5) ラグスクリュー (生体用合金Ⅰ) (6) ラグスクリュー (生体用合金Ⅱ) (7) スライディングラグスクリュー (生体用合金Ⅰ) (8) 圧迫固定スクリュー (生体用合金Ⅰ) (9) 圧迫固定スクリュー (生体用合金Ⅱ)	固定用内副子・F F - 1 固定用内副子・F F - 2 固定用内副子・F G - 1 固定用内副子・F G - 2 固定用内副子・F H - 1 固定用内副子・F H - 2 固定用内副子・F I - 1 固定用内副子・F J - 1 固定用内副子・F J - 2
063 固定用内副子用ワッシャー、ナット類 (1) ワッシャー (Ⅰ) (2) ワッシャー (Ⅱ) (3) ナット	固定用内副子・F K - 1 固定用内副子・F K - 4 固定用内副子・F L
064 脊椎固定用材料 (1) 脊椎ロッド (2) 脊椎プレート (S) (3) 脊椎プレート (L) (4) 椎体フック (5) 脊椎スクリュー (固定型) (6) 脊椎スクリュー (可動型) (7) 脊椎コネクター (8) トランスバース固定器 (9) 椎体ステーブル (10) 椎体ワッシャー	固定用内副子・F M 固定用内副子・F O - S 固定用内副子・F O - L 固定用内副子・F P 固定用内副子・F Q - F 固定用内副子・F Q - V 固定用内副子・F S 固定用内副子・F T 固定用内副子・F U 固定用内副子・F 3 - a
065 人工肩関節用材料 (1) 肩甲骨側材料 (2) 上腕骨側材料	人工肩関節・S G - 1 人工肩関節・S H - 2
066 人工肘関節用材料 (1) 上腕骨側材料 (2) 尺骨側材料 (3) 橈骨側材料	人工肘関節・E H - 1 人工肘関節・E U - 2 人工肘関節・E R - 3
067 人工手関節・足関節用材料 (1) 人工手関節用材料・橈骨側材料 (2) 人工手関節用材料・中手骨側材料 (3) 人工手関節用材料・一体型 (4) 人工足関節用材料・脛骨側材料 (5) 人工足関節用材料・距骨側材料	人工手関節・W R - 1 人工手関節・W M - 2 人工手関節・W O - 3 人工足関節・A T - 1 人工足関節・A T - 2
068 人工指関節用材料 (1) 人工手指関節用材料・人工手根中手関節用材料・大菱形骨側材料 (2) 人工手指関節用材料・人工手根中手関節用材料・中手骨側材料 (3) 人工手指関節用材料・その他の人工手指関節用材料・近位側材料	人工手指関節・P F - 1 人工手指関節・P M - 2 人工手指関節・P P - 3

告示名	略称
(4) 人工手指関節用材料・その他の人工手指関節用材料・遠位側材料	人工手指関節・PD-4
(5) 人工手指関節用材料・その他の人工手指関節用材料・一体型	人工手指関節・PO-5
(6) 人工手指関節用材料・その他の人工手指関節用材料・人工手根骨用	人工手指関節・PC-6
(7) 人工足指関節用材料・近位側材料	人工足指関節・TP-7
(8) 人工足指関節用材料・遠位側材料	人工足指関節・TD-8
(9) 人工足指関節用材料・一体型	人工足指関節・TO-9
069 上肢再建用人工関節用材料	
(1) 再建用上腕骨近位補綴用材料	上肢再建関節・UL-1
(2) 再建用上腕骨遠位補綴用材料	上肢再建関節・UL-2
(3) 再建用尺骨側材料	上肢再建関節・UL-3
070 下肢再建用人工関節用材料	
(1) 再建用臼蓋形成カップ	下肢再建関節・LL-1
(2) 再建用大腿骨近位補綴用材料	下肢再建関節・LL-2
(3) 再建用大腿骨遠位補綴用材料	下肢再建関節・LL-3
(4) 再建用大腿骨表面置換用材料	下肢再建関節・LL-4
(5) 再建用脛骨近位補綴用材料	下肢再建関節・LL-5
(6) 再建用脛骨表面置換用材料	下肢再建関節・LL-6
071 カスタムメイド人工関節及びカスタムメイド人工骨	
(1) カスタムメイド人工関節	カスタムメイド人工関節・CP-1
(2) カスタムメイド人工骨	
① カスタムメイド人工骨 (S)	カスタム人工骨・CP-2S
② カスタムメイド人工骨 (M)	カスタム人工骨・CP-2M
③ カスタムメイド人工骨 (L)	カスタム人工骨・CP-2L
072 人工骨頭帽	骨頭帽・RS-1
073 髓内釘	
(1) 髓内釘・一般型	髓内釘・F4-a
(2) 髓内釘・横止め型	髓内釘・F4-b
(3) 髓内釘・大腿骨頸部型	髓内釘・F4-c
(4) 髓内釘・集束型	髓内釘・F4-d
(5) 髓内釘・可変延長型	髓内釘・F4-e
(6) 横止めスクリュー・標準型	髓内釘・F4-f-1
(7) 横止めスクリュー・大腿骨頸部型	髓内釘・F4-f-2
(8) ワッシャー・ナット	髓内釘・F4-j
074 固定釘	
(1) 平面型	固定釘・F5-a
(2) 立体特殊型	固定釘・F5-b
(3) 高位脛骨骨切り用	固定釘・F5-c
075 固定用金属線	
(1) 金属線・ワイヤー	金属線・F6-a-1
(2) 金属線・ケーブル	金属線・F6-a-2
(3) 金属線・バンド	金属線・F6-a-3
(4) 大転子専用締結器	金属線・F6-b
076 固定用金属ピン	
(1) 創外固定器用・標準型	金属ピン・F7-a



告示名	略称
(2) 創外固定器用・抗緊張ピン・一般型	金属ピン・F 7 - b - 1
(3) 創外固定器用・抗緊張ピン・特殊型	金属ピン・F 7 - b - 2
(4) 一般用・ <del>標準型</del>	金属ピン・F 7 - c - <del>1</del>
<del>(5) 一般用・リング型</del>	<del>金属ピン・F 7 - c - 2</del>
077 人工靭帯	
(1) 固定器具なし	靭帯・F 8 - a
(2) 固定器具つき	靭帯・F 8 - b
078 人工骨	
(1) 汎用型・非吸収型・顆粒・フィラー	人工骨・AB - 0 1
(2) 汎用型・非吸収型・多孔体	人工骨・AB - 0 2
(3) 汎用型・非吸収型・骨形成促進型	人工骨・AB - 0 3
(4) 汎用型・非吸収型・形状賦形型	人工骨・AB - 0 4
(5) 汎用型・吸収型・顆粒・フィラー	人工骨・AB - 0 5
(6) 汎用型・吸収型・多孔体	人工骨・AB - 0 6
(7) 専用品・人工耳小骨	人工骨・AB - 0 7
(8) 専用品・開頭穿孔術用	人工骨・AB - 1 0
(9) 専用品・頭蓋骨・喉頭気管用	人工骨・AB - 1 1
(10) 専用品・椎弓・棘間用	人工骨・AB - 1 3
(11) 専用品・椎体固定用・1 椎体用	人工骨・AB - 1 4
(12) 専用品・椎体固定用・その他	人工骨・AB - 1 5
(13) 専用品・骨盤用・腸骨稜用	人工骨・AB - 1 6
(14) 専用品・骨盤用・その他	人工骨・AB - 1 7
(15) 専用品・肋骨・胸骨・四肢骨用	人工骨・AB - 1 9
(15-2) 専用品・椎体骨創部閉鎖用	人工骨・AB - 1 9 - 2
(15-3) 専用品・スクリュー併用用	人工骨・AB - 1 9 - 3
(16) 特殊型	人工骨・AB - 2 0
079 骨セメント	
(1) 頭蓋骨用	セメント・F 1 1 - a
(2) 人工関節固定用	セメント・F 1 1 - b
(3) 脊椎用 <del>(I)</del>	セメント・F 1 1 - c
(4) <del>削除脊椎用 (II)</del>	<del>セメント・F 1 1 - d</del>
080 合成吸収性骨片接合材料	
(1) スクリュー・一般用	吸収性接合材・F 9 - a - 1
(2) スクリュー・頭蓋・顎・顔面・小骨用	吸収性接合材・F 9 - a - 2
(3) 中空スクリュー	吸収性接合材・F 9 - a - 3
(4) ストレートプレート	吸収性接合材・F 9 - b
(5) その他のプレート	吸収性接合材・F 9 - c
(6) インターフェランススクリュー	吸収性接合材・F 9 - d
(7) スーチャーアンカー	吸収性接合材・F 9 - e
(8) ボタン	吸収性接合材・F 9 - f
(9) ワッシャー	吸収性接合材・F 9 - g
(10) ピン・一般用	吸収性接合材・F 9 - h - 1
(11) ピン・胸骨・肋骨用	吸収性接合材・F 9 - h - 2
(12) シート・メッシュ型 (I)	吸収性接合材・F 9 - i